

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
つくばビジネスカレッジ 専門学校		平成7年10月9日		國府田 一之		〒305-0003 茨城県つくば市桜2-14-4 (電話) 029-857-9700		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 つくば総合学院		平成7年10月9日		片岡 均		〒305-0003 茨城県つくば市桜2-14-4 (電話) 029-857-9700		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
商業実務	商業実務専門課程		ブライダルビジネス学科		平成20年度	-	平成26年度	
学科の目的	ブライダル分野における幅広い専門知識と実践的応用力を習得させ、早期での職業実習を経験することにより、コミュニケーション能力・ホスピタリティ精神を併せ持つ人材を育成する							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	OWBW認定ウエディング・スペシャリスト　OWBJ認定ウエディングプランナー　OWBJ認定ドレスコーディネーター　ブライダルコーディネート技能士　○山野流着装初・中傳　○ホテルビジネス実務検定ベーシック2級　○色彩活用パーソナルカラー検定3級							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,800 単位時間	812 単位時間	908 単位時間	80 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
60 人	31 人		0 人		0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		17 人					
	■就職希望者数(D)		17 人					
	■就職者数(E)		17 人					
	■地元就職者数(F)		10 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		59 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
ホテル、結婚式場、ドレスショップ、写真館、宝飾販売店 他								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無			
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.tsg.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				1,800 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				80 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				180 単位時間			
	うち必修授業時数				1,800 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				80 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				180 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				80 単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総授業時数				単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
うち必修授業時数				単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				2 人			
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人			
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人			
	計				3 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ブライダルプランナー・ドレスコーディネーター等ブライダル・ホテル業界への就職を目標にカリキュラムを構成している。ブライダル業界が必要とする「おもてなしの心」を第一に考え、お客様の思いをカタチにしていくために、企画力・表現力を身に付け即戦力として現場で通用する人材を育成することを目標とする。また学生自らが企画立案した挙式・披露宴を手掛ける為、数多くの知識や技術を早めに習得できるように授業編成している。ドレススタイリスト、和装知識、フラワーアレンジメント等、外部において指導をされている方、専門店を運営されている方が授業を担当し、専任教員と協議をしながら、企業が求める人材を育成・輩出できるカリキュラムを毎年改善しながら構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会の位置付けは、学校組織教務部の上に位置し、年に2回の教育課程編成委員会での意見を活かすことで、その後の教育課程の編成を協力して行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
樽見 美希	一般財団法人国際美容協会 山野流着装教室 講師	令和5年4月1日～令和9年3月31日(4年)	①
深谷 優子	株式会社カメラア	令和5年4月1日～令和9年3月31日(4年)	③
山田 梨紗	株式会社ビースタイル 常務取締役	令和5年4月1日～令和9年3月31日(4年)	③
國府田 一之	つくばビジネスカレッジ専門学校 校長		
長瀬 剛夫	つくばビジネスカレッジ専門学校 副校長		
真家 順子	つくばビジネスカレッジ専門学校 ブライダルビジネス学科 主任		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

毎年度、半期に一度(7～9月・2～4月)に実施するものとする。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月13日 10:30～12:30

第2回 令和7年3月28日 10:30～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

Web面接は、対面での面接と違って表情が読み取りにくく、通信状況も影響してくる。ブライダルの学生は他学科と比べると笑顔が素晴らしいので、就職課と連携し、Web面接試験に対応するために模擬面接により試験対策を強化していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

1. ブライダル業界でより実践的な知識・技能・社会人としてのマナーを身につける。
 2. 机上の学習と実際の業務を結びつけ、学生に自ら何を学ぶべきかを自覚させ、更に学校において自己研鑽をつませる。
 3. 豊かな人間性を持ち、顧客と信頼関係を築けるコミュニケーション能力を身につける。
- 上記1～3を実現するために、ブライダル業界の企業と連携を図り、実習を協力して行える体制づくりをする。そのためには、各企業と協定を結び、その企業と人材交流を深め、カリキュラム構築への助言を頂くものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前に担当教員と企業の実習担当者が打ち合わせを行い、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価の指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を把握できるよう相互に情報交換を行う。また、実習先に訪問し実習状況も確認する。実習修了時には、企業実習担当者による学生の学修評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
Weddings I・II	欧米ブライダルビジネスを学習し、NBS WBW認定ウエディングスペシャリスト、WBJ認定ウエディングプランナー取得を目指す。	株式会社ジャスマック (ウエディングビューフル協会)
和装知識 I・II	和装・小物の知識を学習する。また和装着装の技術向上も図ることを目的とする。山野流着装初傳・中傳の合格を目指す。	一般財団法人国際美容協会
企業実習	講義等で得た知識を実践の場で体験することを目的とする。企業担当者の指導の下、知識と実践の融合を図り、学習効果を高める。	ホテル日航つくば、アトラクティブ 他
和装実技	実際の結婚式を想定して、和装着装の技術向上を図ることを目的とする。	一般財団法人国際美容協会
卒業制作	ブライダル業界で必要となる発想力、考える力を養い、思いを形にできる表現力の向上を図ると共に、企画・運営に必要な企画書・予算書・進行表などの作成技術を習得する。集大成として模擬挙式・披露宴をプロデュースする。	つくば市内または近郊の結婚式場、ホテル 等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

時代とともに常に変化・発展するブライダル業界に必要な資質を持った学生を送り出すための授業知識・技能を習得するために、教員は学内及び学外での研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げ、それを教育の現場にて反映させていくこととする。また、退学防止のため、指導者研修などにも積極的に参加することで教員としての資質向上を図るものとする。年1回以上の研修参加を義務付けるため、年度当初に計画・調整する。学校は教員研修規程に従い、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員に関して「新任教員基礎研修」管理職教職員に関しては「管理職研修」、また各々指導分野における実務研修・見学研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ブライダル講師のための勉強会	連携企業等:	株式会社ジャスマック ウエディングスビューティフル協会
期間:	令和6年8月19日(月)	対象:	常勤講師1名
内容	プロのウエディングドレスデザイナーから見た、本当に必要な実務スキルとは。 ドレスコーディネーター実務の授業を進める中で、・フィッティング技術の教え方が分からない・実際の補正の作業が見たい(教え方を知りたい)・縫製スキルはどのような内容を教えたらよいか知りたい 以上の内容を日々現場で活躍されているプロの技術を解説を加えながらライブ配信で学習する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ブライダル講師のための勉強会	連携企業等:	株式会社ジャスマック ウエディングスビューティフル協会
期間:	令和7年3月25日(火)	対象:	常勤講師1名
内容	○最新のブライダル業界の情勢と今後の業界動向、及び効果的な集客ツールとは ①変化した御y会の現状と動向 ②学生募集に役立つSNS活用		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ブライダル講師のための勉強会	連携企業等:	株式会社ジャスマック ウエディングスビューティフル協会
期間:	令和7年8月、令和8年3月	対象:	常勤講師
内容	○ブライダル業界最新情報 ○トレンド など		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	新任教員基礎研修(仮)	連携企業等:	一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和8年3月	対象:	常勤講師
内容	専門学校の理解と、授業教授法を経験のある教員の模擬授業を参考にしながら学習し、指導力向上を図る。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- 1、学校関係者評価は、評価という協働作業を通じて、学校、卒業生、地域住民などがお互いに理解を深めることである。学校はそれに関係する人たちが理解を深め合うためのコミュニケーションツールであると考えます。
- 2、学校評価の基本は、自己評価である。学校が行った自己評価が、卒業生、地域住民たちの目から見ても違和感無く受け入れられるかについて意見を頂き、自己評価の客観性・透明性を高めていきたい。
- 3、学校関係者評価は、卒業生、地域住民などが、学校と一緒に学生のことを考え、それぞれの立場、視点から意見を出し合うことで、より良い学校づくりに寄与するためである。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像・教育の特色
(2)学校運営	運営方針・事業計画・運営組織・教職員の評価・育成・人事・給与制度・情報システム
(3)教育活動	目標の設定・教育方法・評価等・成績評価・単位認定等・資格・免許取得の指導体制・キャリア教育等
(4)学修成果	学修成果・就職率・資格・免許の取得率・社会的評価
(5)学生支援	修学支援・就職等進路・学生相談・学生生活・中途退学への対応・保
(6)教育環境	施設・設備等・学外実習・インターンシップ等・防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動・入学選考・学納金
(8)財務	関係法令、設置基準等の遵守・個人情報保護・学校評価・教育情報の公開
(9)法令等の遵守	財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	留学生の受入れ・海外への留学

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

コロナが明けて、ブライダル業界において実習の受け入れが可能になったので、積極的に受け入れ先を探して、承諾を得ている。また施設見学も適時依頼をしている。教員研修は、専門分野別の研修を継続して受講していく。オンライン研修が主流になってきており参加もしやすい。新任教員には、専門学校の概要などを各学科責任者が丁寧に説明、指導していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
大塚 清	元高等学校 校長	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	教育関係者
原田 文普	元高等学校 教頭	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	教育関係者
細田 哲司	団体 理事長	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	地域住民
山田 梨紗	株式会社ビースタイル 常務取締役	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	企業等委員
越川 三千雄	株式会社サイドランチ 編集チーフ	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	企業等委員
佐藤 勝慶	株式会社パブリオ 代表取締役	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	企業等委員
舘 香織	公立学校教員	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	卒業生
品川 みな美	株式会社provi デザイナー	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	卒業生
飯塚 康	北友ビジネス株式会社 プログラマー	令和4年4月1日～令和8年3月31日(4年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tsg.ac.jp/>
公表時期: 令和7年8月7日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

一般社団法人全国専門学校教育研究会が作成した自己点検・評価基準を基に、学校に適応した「自己点検・評価チェックリスト」を策定し、自己点検を行うことで、教育水準の向上に更に努めるよう工夫する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	教育活動
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果・教育成果
(5)様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6)学生の生活支援	教育環境
(7)学生納付金・修学支援	学生の受入れ募集
(8)学校の財務	教育の内部質保証システム
(9)学校評価	財務
(10)国際連携の状況	社会貢献・地域貢献
(11)その他	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tsg.ac.jp/>

公表時期: 令和7年8月7日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程　ブライダルビジネス学科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			Weddings I	欧米ブライダルビジネスを学習し、NBS WBW認定ウエディングスペシャリスト、WBJ認定ウエディングプランナー取得を目指す。	1前	60		○			○		○		○
2	○			Weddings II	欧米ブライダルビジネスを学習し、NBS WBW認定ウエディングスペシャリスト、WBJ認定ウエディングプランナー取得を目指す。	1後	75		○			○		○		○
3	○			ブライダル総論 I	結婚式の基礎的な知識からセールス、マーケティングに至るまでの知識を習得することを目的とする。	1前	45		○			○		○		
4	○			プレゼンテーション I	プロデュース、卒業研究、また実社会において必要なプレゼンテーション技法及びパワーポイントを学び、実践する。	1前	60			○		○		○		
5	○			プレゼンテーション II	プロデュース、卒業研究、また実社会において必要なプレゼンテーション技法及びパワーポイントを学び、実践する。	1後	60			○		○		○		
6	○			ホテルビジネス I	知識だけでなく、ホスピタリティ、おもてなしの世界を理解し技術も高めます。ホテルビジネス実務検定試験合格を目指します。	1前	30		○			○		○		
7	○			ホテルビジネス II	知識だけでなく、ホスピタリティ、おもてなしの世界を理解し技術も高めます。ホテルビジネス実務検定試験合格を目指します。	1後	30		○			○		○		
8	○			ドレススタイリスト I	ウエディングドレスの知識やフィッティング技術、コーディネート技術を習得することを目的とする。WBJ認定ドレスコーディネーター取得を目指す。(講義30h, 演習15h)	1前	45		○	△		○		○		
9	○			ドレススタイリスト II	ウエディングドレスの知識やフィッティング技術、コーディネート技術を習得することを目的とする。WBJ認定ドレスコーディネーター取得を目指す。(講義15h, 演習30h)	1後	45		△	○		○		○		
10	○			和装知識 I	和装・小物の知識を学習する。また和装着装の技術向上も図ることを目的とする。山野流着装初傳・中傳の合格を目指す。(講義30h, 演習15h)	1前	45		○	△		○			○	○
11	○			和装知識 II	和装・小物の知識を学習する。また和装着装の技術向上も図ることを目的とする。山野流着装初傳・中傳の合格を目指す。(講義15h, 演30h)	1後	45		△	○		○			○	○
12	○			ブライダルコスメ I	ブライダル業界向けのヘアアレンジメント、ネイル、化粧の技術習得を目的とする。	1前	45			○		○			○	
13	○			ブライダルコスメ II	ブライダル業界向けのヘアアレンジメント、ネイル、化粧の技術習得を目的とする。	1後	30			○		○			○	
14	○			カラーコーディネート I	基本的な色彩の知識や仕組みを習得することを目的とする。色の組み合わせ、トーン、配色などの知識を身につける。色彩検定合格を目指す。	1前	45		○			○		○		
15	○			カラーコーディネート II	基本的な色彩の知識や仕組みを習得することを目的とする。色の組み合わせ、トーン、配色などの知識を身につける。色彩検定合格を目指す。	1後	30		○			○		○		
16	○			P C実習 I	P C操作の基本であるExcel・Wordの基本操作を身につけることを目的とする。映像、画像処理操作方法も学習する。	1前	25			○		○			○	
17	○			P C実習 II	P C操作の基本であるExcel・Wordの基本操作を身につけることを目的とする。映像、画像処理操作方法も学習する。	1後	15			○		○			○	
18	○			一般常識 I	社会人として、またブライダル業界人として必要な一般常識を身に付ける。	1前	15		○			○		○		
19	○			一般常識 II	社会人として、またブライダル業界人として必要な一般常識を身に付ける。	1後	15		○			○		○		
20	○			プランナー実務	ウエディングプランナーとしての役割を学び、実務的なことは勿論、プロデュース力や対応力を身に付ける。	1後	15			○		○		○		
21	○			就職実務 I	就職活動の流れを理解し、豊かな人間性育成を目的とする。社会モラルや職業観を醸成し、キャリア形成の必要性を理解する。さらに適性検査、S P I 試験、面接試験等について理解する。	1後	15		○			○		○		
22	○			英会話 I	英会話の基礎的な知識の習得を目的とする。ブライダル・ホテル業界に活かす知識を得る。	1前	15		○			○			○	

(商業実務専門課程　プライダルビジネス学科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
23	○			英会話Ⅱ	英会話の基礎的な知識の習得を目的とする。プライダル・ホテル業界に活かす知識を得る。	1後	15		○			○			○	
24	○			企業実習	講義等で得た知識を実践の場で体験することを目的とする。企業担当者の指導の下、知識と実践の融合を図り、学習効果を高める。	1後	80				○		○	○		○
25	○			卒業制作Ⅰ	プライダル業界で必要となる発想力、考える力を養い、思いを形にできる表現力の向上を図ると共に、企画・運営に必要な企画書・予算書・進行表などの作成技術を習得する。集大成として模擬挙式・披露宴をプロデュースする。	2前	90			○		○	△	○		○
26	○			卒業制作Ⅱ	挙式。披露宴について研究し、企画・運営するプライダルプロデュースの発表内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。	2後	165			○		○	△	○		
27	○			プライダル総論Ⅱ	結婚式の基礎的な知識からセールス、マーケティングに至るまでの知識を習得することを目的とする。	2前	90		○			○		○		
28	○			プライダル総論Ⅲ	結婚式の基礎的な知識からセールス、マーケティングに至るまでの知識を習得することを目的とする。	2後	90		○			○		○		
29	○			プランナー接遇	結婚式を計画する顧客を想定して、受付から結婚式終了後までの、接遇技術を習得する。	2前	30			○		○		○		
30	○			フラワービジネスⅠ	花材の扱い方を学ぶとともに、ブーケ作成、会場装飾などの技法を習得することを目的とする。	2前	60			○		○			○	
31	○			フラワービジネスⅡ	花材の扱い方を学ぶとともに、ブーケ作成、会場装飾などの技法を習得することを目的とする。	2後	60			○		○			○	
32	○			ドレススタイリストⅢ	ウェディングドレスの知識やフィッティング技術、コーディネート技術を習得することを目的とする。WBJ認定ドレスコーディネーター取得を目指す。	2前	45			○		○		○		
33	○			ドレススタイリストⅣ	ウェディングドレスの知識やフィッティング技術、コーディネート技術を習得することを目的とする。WBJ認定ドレスコーディネーター取得を目指す。	2後	45			○		○		○		
34	○			プライダルプロデュース	日々進化するプライダル業界の研究を行い、顧客の希望に添えるような結婚式をプロデュースできる知識を習得する。	2後	45		○			○		○		
35	○			和装実技	実際の結婚式を想定して、和装着装の技術向上を図ることを目的とする。	2後	45			○		○			○	○
36	○			国家検定プライダルコーディネーター技能士検定対策	国家検定プライダルコーディネーター技能士検定合格を目指すために、関連分野の知識向上を図ることを目的とする。	2後	45		○			○		○		
37	○			P C実習Ⅲ	P C操作の基本であるExcel・Wordの基本操作を身につけることを目的とする。映像、画像処理操作方法も学習する。	2前	30			○		○			○	
38	○			就職実務Ⅱ	就職活動の流れを理解し、豊かな人間性育成を目的とする。社会モラルや職業観を醸成し、キャリア形成の必要性を理解する。さらに適性検査、S P I試験、面接試験等について理解する。	2前	30		○			○		○		
39	○			英会話Ⅲ	英会話の基礎的な知識の習得を目的とする。プライダル・ホテル業界に活かす知識を得る。	2前	15		○			○			○	
40	○			英会話Ⅳ	英会話の基礎的な知識の習得を目的とする。プライダル・ホテル業界に活かす知識を得る。	2後	15		○			○			○	
合計						40	科目	1,800 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: ① 出席率が90%以上・2年間1,700時間以上 ② 成績評価がC以上 ③ 学納金の完納 ④ 卒業基準検定の取得 履修方法: 全ての学生が必修科目を履修する		1学年の学期区分	2期
履修方法: 各学年において、年間800時間以上、2年間で1,700時間以上履修するものとする。		1学期の授業期間	18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。